



メディア関係者各位【掲載依頼】

日本初の「鍼灸臨床における自殺関連事象の実態調査」の結果公表

(公社)日本鍼灸師会・鍼灸メンタルヘルsteamおよび東京有明医療大学の研究チームは、鍼灸臨床における自殺関連事象への遭遇実態を把握するため、厚生労働大臣指定法人・(一社)いのち支える自殺対策推進センターの助言のもと、日本全国の鍼灸師を対象とした日本で初めてのアンケート調査を実施しました。

鍼灸師の4割以上が、「自殺関連事象」に遭遇

アンケートに回答した1,093人のうち、464人(42%)が「自殺関連事象に遭遇したことがある」と回答し、鍼灸師が日常の臨床の中で自殺関連事象に接している実態が示されました。遭遇頻度の高い自殺関連事象として、「死にたい」「消えたい」などの訴えが76%と最も多く、次いで「自傷行為」、「強い絶望感」、「危機的な行動の異変」が続きました。

鍼灸臨床の場を自殺対策との接点に

自殺関連事象を訴えた患者の第一主訴は、「抑うつ・不安」が68%で最多であった一方、「身体愁訴」、「不眠」、「慢性疼痛」も高い割合を示しました。鍼灸臨床における自殺関連事象は、メンタルヘルスを主訴とする患者だけでなく、身体症状や不眠、慢性疼痛などを訴えて鍼灸を利用する患者の中에서도表面化している可能性が示唆されました。こうした自殺関連事象への遭遇は、「数回の通院の中で」や「長期的な通院関係の中で」との回答が多く、継続的な通院関係の中で把握されることが多くみられました。

本調査により、自殺関連事象に遭遇している鍼灸師は4割を超えるなど、鍼灸師が自殺関連事象に遭遇している実態が初めて明らかになりました。これらの結果は、鍼灸臨床の場が自殺対策との接点になりうる可能性を示唆するものです。今後、日本鍼灸師会・鍼灸メンタルヘルsteamでは、自殺関連事象に遭遇した鍼灸師が一人で抱え込むことなく、患者の気持ちを受け止め、必要な支援につなげることができるよう、関係機関と連携しながらゲートキーパー研修の実施やガイドラインの作成などを検討していきます。

詳しい内容は、本調査結果をご覧くださいたく、ご案内申し上げます。

■日本鍼灸師会 鍼灸メンタルヘルス事業

<https://www.harikyu.or.jp/mental-health/>

調査結果はこちら⇒

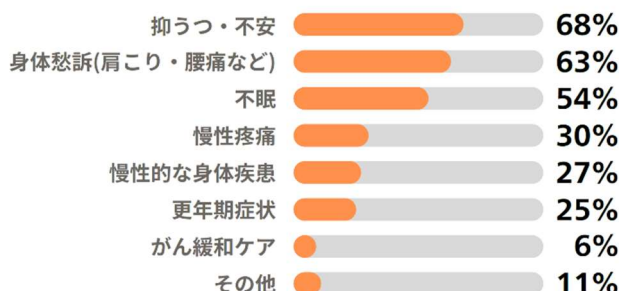


アンケート調査結果の概要（回答者 1,093名）

遭遇した自殺関連事象 (複数回答 n=464)



該当患者の第一主訴 (複数回答 n=464)



<本件に関する問い合わせ先>

東京有明医療大学 保健医療学部 鍼灸学科 松浦悠人 mail: matsuuray@tau.ac.jp